

特 別 調 査 「平成 20 年度の決算状況等について」

ここでは、平成 20 年 10 月から平成 21 年 9 月までに期末を迎えた、もしくは期末を迎える決算を、平成 20 年度の決算としています。

問 1 . 貴社の平成 20 年度決算の売上額は、平成 19 年度に比べおおよそどのようになった、もしくは、なると見込んでいますか。次の(売上額)の中から 1 つ選んでお答え下さい。また、平成 20 年度の売上額の増減に、最も大きな影響を及ぼしている要因は、販売数量の増減と販売単価の上昇・下降のいずれですか。次の(売上額への影響)の中から 1 つ選んでお答え下さい。

	(売上額)			(売上額への影響)				
	増加	ほぼ横ばい	減少	販売数量の増加	販売数量の減少	販売単価の上昇	販売単価の下降	販売数量・単価とも変化なし
合計(構成比)	13.8	31.5	54.7	11.6	53.6	8.3	6.6	19.9
合計件数	25	57	99	21	97	15	12	36
製 造	8	12	21	6	18	3	3	11
建 設	5	9	32	5	31	3	0	7
卸 売	0	3	5	0	5	1	0	2
小 売	10	23	22	7	25	7	5	11
サービス	2	10	19	3	18	1	4	5

* 平成 20 年度の売上額実績・見通し(平成 19 年度実績比)は、「増加」が 13.8%、「ほぼ横ばい」が 31.5%、「減少」が 54.7%と、「減少」と回答する企業が最も多くなっている。

また、売上額への影響要因では、「販売数量の減少」(53.6%)と回答した割合が 5 割を超えている。

問 2 . 貴社の平成 20 年度決算の粗利(売上総利益)、および当期利益は、平成 19 年度に比べておおよそどのようになった、もしくは、なると見込んでいますか。粗利(売上総利益)については次の(粗利(売上総利益))の中から、当期利益については次の(当期利益)の中から、それぞれ 1 つ選んでお答え下さい。

	(粗利(売上総利益))					(当期利益)				
	増加 (黒字)	ほぼ横ばい (黒字)	減少 (黒字)	赤字転落 赤字の継続	分からない、 把握していない	増加 (黒字)	ほぼ横ばい (黒字)	減少 (黒字)	赤字転落 赤字の継続	分からない、 把握していない
合計(構成比)	10.5	26.0	41.4	18.2	3.9	7.7	27.1	35.3	23.8	6.1
合計件数	19	47	75	33	7	14	49	64	43	11
製 造	6	10	17	4	4	5	9	15	6	6
建 設	6	8	19	12	1	4	10	16	15	1
卸 売	0	2	4	2	0	1	2	3	2	0
小 売	5	18	21	10	1	2	18	18	14	3
サービス	2	9	14	5	1	2	10	12	6	1

* 平成 20 年度の利益面の実績・見通し(平成 19 年度実績比)を粗利(売上総利益)でみると、「増加(黒字)」が 10.5%、「ほぼ横ばい(黒字)」が 26.0%、「減少(黒字)」が 41.4%、「赤字転落、継続」が 18.2%、また、当期利益では、それぞれ 7.7%、27.1%、35.3%、23.8% となり、粗利(売上総利益)、当期利益ともに、「減少(黒字)」と回答した割合が最も多くなっている一方、7 割を超える企業が黒字を確保している。

問3．貴社の平成20年度決算で利益面の増減に影響を及ぼしている要因は何ですか。
特に大きいものを、次の中から3つ以内で選んでお答え下さい。

(複数回答)

	販売金額 (単価×数量) の増減	仕入金額 (単価×数量) の増減	人件費 の増減	減価償却費 の増減	その他の経費 の増減	金融費用負担 の増減	臨時的要因 (資産売却益 災害損失など)	その他
合計(構成比)	36.9	23.8	11.0	2.1	15.5	7.5	0.5	2.7
合計件数	138	89	41	8	58	28	2	10
製造	28	27	9	3	13	8	0	2
建設	35	21	13	2	12	6	1	2
卸売	5	4	3	1	5	0	0	0
小売	46	21	13	1	19	10	1	4
サービス	24	16	3	1	9	4	0	2

* 平成20年度の利益面に影響を及ぼしている要因については、「販売金額(単価×数量)の増減」が36.9%と最も多く、ついで「仕入金額(単価×数量)の増減」が23.8%、「その他の経費の増減」が15.5%となっている。

問4．昨今の円高は、貴社の決算にどのような影響がありますか。次の中から1つ選んでお答え下さい。

	良い影響を受けている	やや良い影響を受けている	今後良い影響が考えられる	影響はない	悪い影響を受けている	やや悪い影響を受けている	今後悪い影響が考えられる
合計(構成比)	0.6	3.9	5.5	52.5	11.0	17.7	8.8
合計件数	1	7	10	95	20	32	16
製造	0	1	4	16	6	8	6
建設	0	1	1	29	4	7	4
卸売	0	0	1	2	1	3	1
小売	1	4	2	31	5	10	2
サービス	0	1	2	17	4	4	3

* 平成20年度決算における円高の影響は、「良い影響」(「良い影響を受けている」、「やや良い影響を受けている」、「今後良い影響が考えられる」の合計)と回答する割合が10.0%、「悪い影響」(「悪い影響を受けている」、「やや悪い影響を受けている」、「今後悪い影響が考えられる」の合計)が37.5%となっている。「影響はない」(52.5%)の回答割合が5割を超えているが、約4割に近い企業が悪い影響を訴えている。

問5 . 貴社では、今後の人員についてどのように対応する計画ですか。次の中から最もあてはまるものを1つ選んでお答え下さい。

	正社員を増やす	パート・アルバイトを増やす	派遣社員を増やす	現状の人員は維持する	正社員を減らす	パート・アルバイトを減らす	派遣社員を減らす	未定
合計(構成比)	3.3	4.4	0.0	72.4	6.6	4.4	0.0	8.8
合計件数	6	8	0	131	12	8	0	16
製造	2	2	0	30	4	1	0	2
建設	3	3	0	25	6	4	0	5
卸売	0	0	0	6	0	1	0	1
小売	0	3	0	46	1	1	0	4
サービス	1	0	0	24	1	1	0	4

* 今後の人員計画については、増やす方針の企業が7.7%、減らす方針の企業が11.0%と、減らす方針の回答割合が高くなっているが、7割を超える企業が「現状の人員は維持する」と回答している。

～ 調査員のコメントから ～

- 消費マインドの低下など市況の不調から同業者間の競争も激化、売上、収益環境がさらに厳しさを強めている。 (製造業)
- 自社ホームページを開設し水産加工品のネット販売を開始、全国各地から注文があり今までにない売上を記録した。 (製造業)
- 公共工事の縮減など工事量の減少から価格競争が激化し収益確保はさらに難しさを増しており、将来に不安を抱えながら生き残り策を模索している。 (建設業)
- 建設業の厳しい現状を踏まえ数年前から農業分野へ進出、緩やかな取組みながら将来の展望に期待をよせている。 (建設業)
- 野菜類は本州産中心に順調な入荷となっているが、大型店の安売りや集客力に押され地元小売店からの注文がやや控えめ傾向。 (卸売業)
- ガソリン価格は値を下げやや安定化した、遠出を抑える動きのほか出先でより安い価格で給油をすませるなど節約傾向が強まり、業績は低迷を続ける。 (小売業)
- 地域の食材を使った高齢者や女性向け弁当、惣菜など、コンビニにはない独自商品の開発に取組み低迷する売上の増強を図っている。 (小売業)
- 結婚式を簡略化するケースが多くなっておりこの関連売上が減少傾向、数年前から地元密着型の営業を強化し顧客獲得に努めている。 (サービス業)